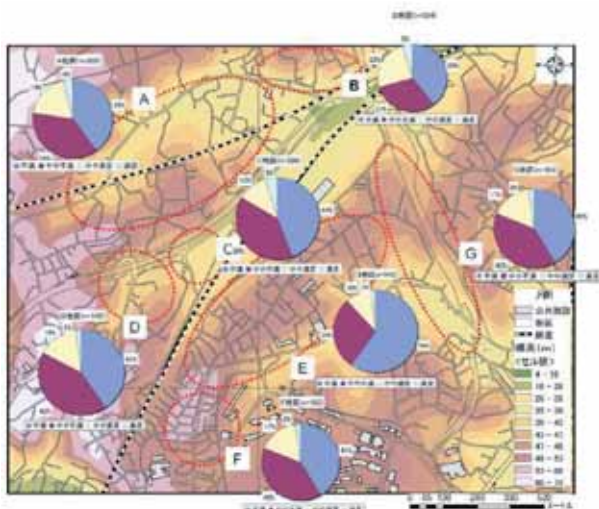


地域連携プロジェクトの実施

横浜国立大学の羽沢旅客駅周辺の地区整備への地域連携の可能性調査の実施

本学北側に位置するJR東海道貨物線羽沢貨物駅付近に旅客駅が建設されることになり、相模鉄道本線、東京急行電鉄東横線、東日本旅客鉄道の相互直通が行われます。同駅は、直線距離800m程度で本学北門に届く位置にあります。交通の便が悪く、玄関たる街並みも有さない本学にとって最寄駅開設は、大学発展のこの上ない契機と言えます。しかし、北門と新駅の間の地区(以下羽沢地区)は一般的な密集市街地であり、駅と大学を連携させるためには、同地区の整備が課題となります。そこで、建築学の都市計画研究室(小林重敬教授)と土木工学の交通研究室(中村文彦教授)の共同提案で平成18年度学長裁量経費にて、題目の調査を実施しました。関連行政へのヒアリングとともに、両研究室学生により対象地区の実態調査を行いました(分析の一例を図に示します)。調査結果より、地域におけるまちづくり、交通便利性向上のニーズが、地域内の地区による差はあるものの確認できました。以上の成果をもとに、羽沢地区での新駅周辺地区の整備の課題をとりまとめました。



羽沢地区の標高と歩道の満足度

「地域交流科目」を通じた地域社会への貢献

近年、都市再生や地域再生の必要性が目立つ中、新しい地域政策、地域力を養い地域資源を活かすまちづくりが求められており、その担い手として内外の諸機関・諸地域と連携した人材の育成が急務です。また、社会貢献が高等教育機関の大きな責務として掲げられる中、地域連携の新しい方法論・システムの教育研究が求められていることから、その方法論やシステムのもとに活躍する人材を輩出する仕組みも必要とされています。この現代的課題に対応するため、地域に根ざした課題解決を担う人



材を実践的に育成しようと展開しているのが、本学特有の学生参画型の実践教育プログラム『地域交流科目』です。これは従来の学問・教育領域を超えた「コア科目・関連科目・地域課題プロジェクト」から成る科目群で、これらを受講・参画することで大学発行の『地域交流人材育成教育プログラム修了証』を取得できる仕組みとなっています。教養教育科目でもある「コア科目 / 地域連携と都市再生A・B」はそれぞれ工学部・経済学部が担当し、いずれも地域の専門家、自治体、NPO、企業等がゲストスピーカーとして登壇する斬新な授業で、平成17・18年度の2年間で延べ1200名程が受講しました。また地域課題の把握・解決に向けた実践参画型の「地域課題プロジェクト」にはこれまで全19プロジェクトが動き、延べ300名の学部・学年を越えた学生が参画しています。プロジェクトには、地元商店街を中心としたフィールドで地域と協働で地域活性化のため仕掛けや提案・実践を行う「和町いきいきプロジェクト」や、エコミュージアムの発想の下で川と環境、歴史・文化のまちづくりといったテーマから地域を見つめ魅力を再発見し発信する「神奈川区魅力さかせ隊」等、工学研究院所属の教員が担当するものもあり、実際のフィールドで様々な視点から地域との協働事業を展開するため、学生からは今までの枠を越えた学びの場、企画力・発想力・交渉力・行動力等が得られるとして好評を博しています。また地域からも、学生にとってローリスクでいろいろ試せる地域での学生参画を積極的に進めて欲しいと期待の声が寄せられています。

